



五感をフルに使い自ら見て聞き考え行動する 経済・社会の課題を自分事として捉える

深澤光樹准教授のゼミでは、世界経済の専門知識の習得と実践から、多角的な視点でグローバル化が進展途上国に与える影響について研究しています。

まずは専門書の輪読を行い、バナナなどの身近なグローバル商品を具体例に、発展途上国の生産体制・労働環境や日本の消費者との関係性を読み解き、アンフェアな取引が起こる背景について考察します。身近な商品が世界とどのようにつながっているのかを想像する力が何よりも大切だと語ります。

3年次の夏以降は、学生が主体となってプロジェクトに取り組みます。〈産学連携〉と〈新規開拓〉の2つのチームに分かれ、学生独自の視点で社会における課題を発見し、解決に向けた企画を考案し実行します。その際、提携企業との交渉やマーケティング、デザイン、販売方法から価格決定まで、一貫して学生が行います。重要なのは、その企画が課題解決につながるだけでなく、メッセージ性があるかどうかということ。〈産学連携〉チームでは、「Stepping Stone」^(※1)という産学連携プロジェクトに参加し、環境保全とコーヒー2050年問題の解決を目指して法政大学との合同チームで企画開発した「サステナブルバッグ」は、「KANDAI×HOSEI SDGsアクションプランコンテスト2023」で最優秀賞ほか2賞を受賞。〈新規開拓〉チームでは、大阪を起点に企画を考案します。環境問題に取り組むアウトドアブランド「Patagonia」の店舗に何度も足を運び、ついに提携が実現。5月にはさまざまな提携企業と共同し、「アパレル製品を通して消費について考えるきっかけを作るイベント」をゼミ主催で初めて開催しました。4年次でもプロジェクトは継続しつつ、自身の研究テーマをさらに深め卒業論文に取り組みます。

「今後、社会では自ら考えて行動し、作ることができる人が求められるでしょう。そのため学生にとって自らの意思で何かを作る、形にすることは非常に大きな一歩です。皆さんが思う以上に自分から行動できることは多く、持っている影響力も大きいです。何より実際に見て、触れて、話を聞く経験はとても楽しく、貴重です。発想と行動力で、一緒に社会に貢献できる物を作っていきましょう」と締めくくります。

※1 Stepping Stone…株式会社スバストラジャパンが6大学（明治大学、法政大学、駒澤大学、関西大学、名古屋外国語大学、東洋大学）のゼミ、認定NPO法人フェアトレード・ラベル・ジャパンと進める、産学連携のフェアトレードプロジェクト。



さかもと じゅんと
坂本 隼人さん(4年次生)

以前はコロナ禍で活動が制限されていたこともあり、活動が盛んで楽しそうな深澤ゼミに入りました。新規開拓チームではリーダーとしてみんなの意見や思いをまとめる立場を経験し、傾聴力や問題を追求する力が身に付いたと実感しています。いつも親身に私たちの相談に乗り、気軽に食事にも誘ってくださる深澤先生や、長い時間を共に過ごすゼミのメンバーは家族のような存在です。



さくら
川原 咲羅さん(4年次生)

インドについての学びを深めたいと思い、このゼミを選びました。「Stepping Stone」は他大学との共同チームのため、オンラインの打ち合わせでなかなか意見を言えずに苦労したり、エコバッグの刺しゅうデザインを担当した時は自分らしさを生かすことに悩んだりもしました。そういったゼミでの経験を積み、今では積極的に発言できるようになりました。商品作りは本当に楽しく有意義でした。

